

第 26 期日本学術会議会員候補者の選考方針
(原案(案)／会員 1 次照会版への意見を踏まえた修正案)

- 日本学術会議は、日本学術会議法（昭和 23 年法律第 121 号。以下「法」という。）第 17 条に基づき「優れた研究又は業績がある科学者」のうちから会員の候補者を選考するため、「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」（令和 3 年 4 月 22 日日本学術会議）を踏まえ、第 26 期日本学術会議会員候補者（以下「会員候補者」という。）の選考に当たっての基本的な考え方等を以下のとおり定める。
- 会員候補者の選考は、コ・オプテーション方式（現在の会員が次期において会員となるべき者を選考する方式）による。同方式は、学術に関しては専門性を持つ者にその価値の判断をゆだねることが適当であり、科学者が自律した集団として公共的役割を果たすという観点から採用されているものである。会員は、「優れた研究又は業績」（法第 17 条）についてもつばら会員各自の見識を基に判断すべきことを深く自覚した上で、わが国の科学者を内外に代表する機関である日本学術会議の構成員としてふさわしい会員の候補者を推薦し及び選考するものとする。

1. 選考の日程

- 候補者の選考は、以下の日程を目途として所要の進める。
- ・選考方針の決定（総会）：令和 4 年 4 月
 - ・選考要領の決定（選考委員会）：同 9 月頃
 - ・会員・連携会員による推薦：同 11 月～令和 5 年 1 月末頃
 - ・選考委員会における選考：令和 5 年 2～6 月頃
 - ・候補者名簿の承認（幹事会）：同 6 月頃
 - ・候補者名簿の承認（総会（臨時））：同 7 月頃

2. 会員の候補者に求める資質等

- 会員候補者は、それぞれの研究分野における主要な論文・著書・特許等、受賞の実績、国際的な学術活動における功績、社会への貢献における学術的に特筆すべき活動等に照らして、法第 17 条に定められた優れた研究又は業績がある科学者と認められる者とする。
- 会員候補者の選考に当たっては、法第 3 条に定められた職務に鑑み、優れた研究又は業績がある科学者であることに加え、活動の実績等に照らして以下のいずれかの要件を備えていると認められる者であることを考慮する。
- 学術の動向及び社会の動向を的確に把握し、科学・技術の発展方向を広い視野から展望して異なる専門分野間をつなぐことができること
 - 上記の観点を踏まえて、広く社会と対話する能力を有すること

コメントの追加 [1]: 「評価」に修正（和田肇会員（第 1 部））

※ 提示した案は「より良い役割発揮」中の該当部分を引用したもの。

コメントの追加 [2]: 「自律的に」に修正（和田肇会員（第 1 部））

※ 同上

コメントの追加 [3]: 「担うべきである」に修正（和田肇会員（第 1 部））

※ 同上

コメントの追加 [4]: 和田肇会員（第 1 部）

コメントの追加 [5]: 「～ものである。同方式採用理念に鑑み、会員は～」
下線部を挿入（材料工学委員会幹事団）

削除: り、

コメントの追加 [6]: 和田肇会員（第 1 部）

削除: することとなる

コメントの追加 [7]: 和田肇会員（第 1 部）

コメントの追加 [8]: 和田肇会員（第 1 部）

削除: おいて

削除: される

コメントの追加 [9]: 「が望ましい」に修正（和田肇会員（第 1 部））

コメントの追加 [10]: 削除（和田肇会員（第 1 部））

コメントの追加 [11]: 削除（和田肇会員（第 1 部））

3. 会員候補者の選考

(1) 専門分野の構成

- 学術の動向を的確に把握し、学際的分野や新たな学術分野などからの会員候補者の選考を強化しつつ、日本学術会議がその役割を十全に発揮できるよう多様な学術分野がバランスよく網羅されることを目指す。

その際、次期における重点事項、中長期的・分野横断的課題等を以下のとおり想定し、これらに適切に取り組むことができるように非改選の会員及び新たに任命される連携会員との組み合わせに配慮する。

- ① ●●●●●●●●
② ■■■■■■■■
③ ▲▲▲▲▲▲▲▲
・・・

※ 具体的な重点事項、中長期的・分野横断的課題の提示に係る意見については別紙1・2参照

※ 昨年4月に総会において取りまとめられた「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」では、「次期に重点的に取り組む事項を想定し、それにふさわしい分野からの候補者選定を行うとともに、中長期的課題に対応し期をまたいで継続的に検討することに留意して会員候補者の選考にも取り組むこととしています。

昨年12月の総会においては、総合的・中長期的課題として①カーボンニュートラル（ネットゼロ）、②パンデミックと社会、③研究力強化、④国際的な取組を取り上げて討議したところです。①②については分野横断的に取り組むための連絡会議が、社会が抱えるその時々課題のうち特に重要な課題については③を含めて以下を審議するための課題別委員会が、それぞれ設けられています。

ア) 防災減災

イ) 人口縮小社会における問題解決

ウ) フューチャーアースの推進と連携

エ) オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用

オ) 自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン

カ) 学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成

キ) 大学教育の分野別質保証

ク) 我が国の学術の発展・研究力強化

ケ) ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用

上記「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の趣旨に沿って選考の際に考慮・留意すべき課題等を選考方針においていかに反映させるか、方針に示すこととする場合、●●●等の部分に何を掲げることが適当か（12月の総会で取り上げた①～④や課題別委員会で審議されているア）～ケ）の中で何を掲げるか、それら以外に掲げるべき課題等として適当なものはあるか）等について、会員の皆様のご意見をお聞かせください。寄せられたご意見を踏まえ、幹事会及び選考委員会においていかに方針

コメントの追加 [12]: 「そのことを本旨としたうえで」に修正（宇山智彦会員（第1部））※具体的な分野を列挙すると、それらの分野を中心に選ばなければいけないという印象を与えかねない。本旨はあくまで第1段落であることを強調する必要があるとの趣旨。

コメントの追加 [13]: 「その際、本来の学術会議設置の目的に鑑み、次期における～」を挿入（材料工学委員会幹事団）

コメントの追加 [14]: 「設定」に修正（和田肇会員（第1部））

削除: 非改選の会員及び新たに任命される連携会員との組み合わせにおいて…

コメントの追加 [15]: 和田肇会員（第1部）

に反映させるかを検討した上で2月下旬以降あらためて（連携会員、外部の有識者等からの意見聴取と並行して）会員の先生方からご意見を求めることとします。

なお、それらの課題等はあくまで次期の会員候補者選考の際の観点の一つとして選考方針に掲げられるものであり、次期のその他の活動を制約するものではなく、また、幹事会、部会、分野別委員会等が次期に引き継ぐ課題等を第25期の期末にそれぞれ決定することを妨げるものでもありません。

- 選考に当たっては、会員は満70歳に達した時に退職する（法第7条第6項）こととされていることを念頭に、2. に掲げる会員候補者に求める資質等を有し、原則として第26期を通じて会員として日本学術会議の活動に貢献しうる者を会員候補者とする。

(2) 選考に当たって考慮すべき観点

- 次期の会員の多様性が確保されるよう、以下の観点を考慮して会員候補者を選考する。

① ジェンダーバランス

将来的には会員における男女の比率をいづれも●%以上にすることを目指すこととしつつ、現状においては女性の割合が少ない学術分野で特定の女性に役割や業務が集中する傾向が見られることにも留意し、第26期当初においては第25期当初の女性会員の割合（37.7%）と同程度の女性会員の割合とすることを目指す。

② 地域分布

近年のオンライン会議の飛躍的な普及も念頭に、地方に活動の拠点を置く会員候補者の積極的な選考に努める。その際、地区会議や地方学術会議の活動に対応できるよう、各地区にバランスよく会員が確保されるとともに、各地区内でも過度の偏在が生じないよう留意する。

③ 主たる活動領域

大学・研究機関だけではなく、産業界、医療分野、法曹界といった実務の現場やシンクタンクで優れた研究又は業績を有するに至った会員候補者（現在の所属機関等にかかわらず主な経歴で判断）の積極的な選考に努める。

④ 年齢構成

会員の年齢構成において多様性を確保するとともに、次世代を担う若手科学者を選出して活躍の場を与えることにも留意する。

(3) 選考の手続

- 会員の選考の手続は、日本学術会議会則（平成17年日本学術会議規則第3号。以下「会則」という。）第8条及び日本学術会議の運営に関する内規（平成17年10月4日・日本学術会議第1回幹事会決定）第6条によるほか、以下のとおり行う。

コメントの追加 [16]: (別紙3参照)

コメントの追加 [17]: 「が」に修正（和田肇会員（第1部））

コメントの追加 [18]: 「を上回る」に修正（和田肇会員（第1部））

「40%」（越智光夫会員（第2部））

第5次男女共同参画基本計画の目標値（35%）を既に超えているので、それを維持するというのか（矢野佳司会員（第1部））

コメントの追加 [19]: 「今後、研究者全体の男女比率の動向を見ながら、女性会員の割合をさらに上げる可能性を検討していく。また、男性・女性に限定されない性自認を持つ研究者がいることにも配慮する。」を追加（宇山智彦会員（第1部））

コメントの追加 [20]: 和田肇会員（第1部）

コメントの追加 [21]: 「無理のない範囲で、過度の偏在が～」を追加（宇山智彦会員（第1部））※北海道地区の場合、大学・研究機関自体が札幌圏に集中しており、会員の地理的分布を現状以上に多様化させるのは難しい限界があるとの趣旨。

削除: 会員の地理的分布において

コメントの追加 [22]: 「さらに、国際性の観点から、外国籍の科学者・研究者の推薦を可能とする。」を追加。（材料工学委員会幹事団）

コメントの追加 [23]: 宇山智彦会員（第1部）※ 原案では、会員全体の活動領域を産業界等を主たるものとしていくように誤解される可能性があるとの趣旨

コメントの追加 [24]: 宇山智彦会員（第1部）※シンクタンクの研究者は、研究と実務を結ぶうえでし... [1]

コメントの追加 [25]: 高齢層の比率が高いことが分科会、委員会等で話題になった（筑本知子会員（第3部））

コメントの追加 [26]: 「～多様性を確保し、特に40代から50代初めの比較的若い研究者を積極的に選出し、日本学術会議の中で重要な役割を担う機会を... [2]

○ 選考委員会における会員候補者の選考は、選考委員会が自ら行う選考と選考委員会の下に設ける部別の選考分科会（以下「選考分科会」という。）を通じて行う選考とを組み合わせで行う。

○ 選考委員会が自ら行う選考に係る会員候補者の数（選考委員会枠）及び選考分科会を通じて行う選考に係る会員候補者の数（選考分科会枠）については、学術の動向を的確に把握し、学際的分野からの会員候補者の選考を強化するため、第 25 期会員候補者の選考の際に比して前者を拡大する。

○ 各選考分科会における分野別の会員候補者の選考に際しては、分野の異なる委員の参画を得てより多面的な視点から審議を行う。

コメントの追加 [27]: 削除（和田肇会員（第 1 部））

コメントの追加 [28]: 第 25 期における選考委員会枠の比率がどの程度で、それをどの程度拡大することとするのか明確でない（遠藤玉夫会員（第 2 部））

（４）情報提供の求め

○ 日本学術会議は、会則第 36 条第 4 項に基づき日本学術会議協力学術研究団体に会員の候補者に関する情報提供を求めるほか、大学関係組織、経済団体、政策関係機関（府省庁を除く。）その他会員候補者の選考に際して有益な知見を有すると考えられる機関又は団体に情報提供を求める。

4. 選考過程等に係る情報の公表

○ 候補者の選考過程について、本選考方針のほか、被推薦者数、選考委員会及び選考分科会での候補者数等を日本学術会議の HP 等に掲載することとする。あわせて、会員として任命された後は、各会員について、研究又は業績の内容、選考方針に基づく選考理由、会員としての抱負を公表することとする。

5. 連携会員の候補者の選考の考え方

○ 連携会員については、2. 及び 3. を勘案して候補者を選考することを基本とした上で、分科会や小委員会の在り方（小委員会委員の在り方も含む。）、設置数等の見直しと関連して候補者の推薦・選出方法、任命の時期等の検討を行い、選考の具体的な手続等を別に定める。

6. その他

○ 選考委員会は、本選考方針に基づき、候補者の選考に係る具体的な基準や選考に当たって考慮すべき事項の細目、選考委員会における選考の方式等を定めた選考要領を策定する。

ページ 3: [1] コメントの追加 [24]	作成者	2022/02/11 21:48:00
--------------------------	-----	---------------------

宇山智彦会員（第 1 部）※シンクタンクの研究者は、研究と実務を結ぶうえでしばしば重要な役割、シンクタンクでの経験を持つ会員を交えて話し合いをすることは有益などの趣旨。

ページ 3: [2] コメントの追加 [26]	作成者	2022/02/11 21:50:00
--------------------------	-----	---------------------

「～多様性を確保し、特に 40 代から 50 代初めの比較的若い研究者を積極的に選出し、日本学術会議の中で重要な役割を担う機会を作るよう留意する」に修文（宇山智彦会員（第 1 部））※多少とも具体的に年齢を書かないと空文化する可能性、現状では会員の年齢構成はある程度多様でも、幹部にはシニア世代が就く傾向。役職者の選び方も工夫していく必要などの趣旨

次期における重点事項、中長期的・分野横断的課題等に係る会員からの意見

	テーマ	意見提出者	コメント等
1	カーボンニュートラル（ネットゼロ）	・ 筑本知子先生（第3部） ・ 野口晃弘先生（第1部） ・ 遠藤玉夫先生（第2部）	・ 「研究力強化、2050年のカーボンニュートラルの達成・維持を担う人材育成」が学界全体での共通課題かと思います。【筑本先生】 ・ 少なくとも①－④は継続して取り組む必要があると思われますので、含めるべきだと思います。【野口先生】
2	パンデミックと社会	・ 野口晃弘先生（第1部） ・ 遠藤玉夫先生（第2部）	・ 少なくとも①－④は継続して取り組む必要があると思われますので、含めるべきだと思います。【野口先生（再掲）】
3	研究力強化	・ 筑本知子先生（第3部） ・ 野口晃弘先生（第1部） ・ 遠藤玉夫先生（第2部） ・ 越智光夫先生（第2部）	・ 「研究力強化、2050年のカーボンニュートラルの達成・維持を担う人材育成」が学界全体での共通課題かと思います。【筑本先生（再掲）】 ・ 少なくとも①－④は継続して取り組む必要があると思われますので、含めるべきだと思います。【野口先生（再掲）】 ・ 課題別委員会の「オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用」、「学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学情情報の基盤形成」、「大学教育の分野別質保証」、「我が国の学術の発展・研究力強化」は含まれると思います。【遠藤先生】
4	国際的な取組	・ 野口晃弘先生（第1部）	・ 少なくとも①－④は継続して取り組む必要があると思われますので、含めるべきだと思います。【野口先生（再掲）】
5	人口縮小社会における問題解決	・ 遠藤玉夫先生（第2部） ・ 越智光夫先生（第2部）	・ 世界に先んじて進行している「超高齢社会」を含める必要を感じます。これらを④として掲げては如何でしょうか。【遠藤先生】
6	防災減災	・ 越智光夫先生（第2部）	
7	社会的格差・分断の解消と社会的包摂	・ 和田肇先生（第1部）	
8	学問の自律と社会連携	・ 宇山智彦先生（第1部）	・ 学術会議の根本的な役割を常に問い直すためのテーマとして「学問の自律と社会連携」、よりよい社会づくりに貢献するとともに研究者の環境の改善も図るためのテーマとして「社会および研究現場での人権と多文化共生」を提案します。せっかく会員の属性について多様性をうたうのですから、活動の方向性にもその趣旨を反映させるべきでしょう。
9	社会および研究現場での人権と多文化共生		

10	文理融合的な研究のみならず教育を議論できる人材	・ 矢野桂司先生（第1部）	・ 課題別委員会の、ア）防災減災、イ）人口縮小社会における問題解決、ウ）フューチャースの推進と連携、を中長期的に展開するためには、これらの分野を俯瞰的にカバーする、初等中等・高等教育への取り組みが必要である。そのために、文理融合的で、地域の課題解決などの教育の重要性を議論することのできる人材を確保する必要がある。
11	人文・社会科学を横断的に理解し、科学分野とも連携して、デジタル技術を最大限に活用した新たな総合知の創出を展望できる人材		・ 今期、第一部の複数の分野別委員会を中心に、合同で「デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会」が設置された。世界的に展開しているデジタル・ヒューマニティーズの動向などをキャッチアップして、日本における人文・社会科学の融合をデジタル技術で推進し、文理融合的な総合知の創出を展望できる人材を強化する必要がある。
12	安心安全の実現に向けた科学技術・イノベーションの実現と学術の強化	・ 材料工学委員会幹事団（山口委員長、乾晴行副委員長、尾崎由紀子幹事、岸本康夫幹事、筑本知子会員、所千晴会員、塙隆夫会員）（第3部）	本文について「本来の学術会議設置の目的に鑑み次期における重点事項、中長期的・分野横断的課題等を以下のとおり想定し、非改選の会員及び新たに任命される連携会員との組み合わせにおいてこれらに適切に取り組むことができるように配慮する。」との修正と合わせて意見提出
13	我が国の国際競争力増強を促す技術の基盤となる学術分野の強化		
14	持続可能な社会インフラ構築の基盤となる学術分野		
15	科学技術力向上に向けた教育制度と若手研究者の育成		
16	カーボンニュートラル（ネットゼロ）時代のエネルギー、環境、および気候変動問題		
17	ダイバシティ推進		
18	データ基盤整備およびAI推進に関わる技術開発および実用化		
19	今後想定されるパンデミック対応を含む、国民の健康的生活実現		
20	人口縮小社会にむけた地域資源を活用した地域循環共生圏（ローカルSDGs）の実現		

次期における重点事項、中長期的・分野横断的課題等の提示の在り方について

選考方針（原案）

3. 会員候補者の選考

（1）専門分野の構成

- 学術の動向を的確に把握し、学際的分野や新たな学術分野などからの会員候補者の選考を強化しつつ、日本学術会議がその役割を十全に発揮できるよう多様な学術分野がバランスよく網羅されることを目指す。

【案 1～案 3（又はそれ以外の考え方）をベースにパラグラフを追加】

【案 1：会員から寄せられた意見を踏まえ、原案において具体的な事項・課題等を提示】

その際、次期における重点事項、中長期的・分野横断的課題等を以下のとおり想定し、これらに適切に取り組むことができるように非改選の会員及び新たに任命される連携会員との組み合わせに配慮する。

- ① ●●●●●●●●
- ② ■■■■■■■■
- ③ ▲▲▲▲▲▲▲▲
- ・ ・ ・ ・ ・

【案 2：原案では具体的な事項・課題等を提示せず、以下※を付記したまま会員・連携会員、外部の有識者等から意見を求め、寄せられた意見を踏まえて 4 月の総会に諮る「選考方針（案）」でそれらを提示（寄せられた意見を見た上で、具体的な事項・課題等を提示せず、案 3 のような形とすることも選択肢）】

その際、次期における重点事項、中長期的・分野横断的課題等を以下のとおり想定し、これらに適切に取り組むことができるように非改選の会員及び新たに任命される連携会員との組み合わせに配慮する。

- ① ●●●●●●●●
- ② ■■■■■■■■
- ③ ▲▲▲▲▲▲▲▲
- ・ ・ ・ ・ ・

※ 昨年 4 月に総会において取りまとめられた「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」では、「次期に重点的に取り組む事項を想定し、それにふさわしい分野からの候補者選定を行うとともに、中長期的課題に対応し期をまたいで継続的に検討することに留意して会員候補者の選考にも取り組むこととしています。

昨年 12 月の総会においては、総合的・中長期的課題として①カーボンニュートラル（ネットゼロ）、②パンデミックと社会、③研究力強化、④国際的な取組を取り上げて討議したとこ

ろです。①②については分野横断的に取り組むための 連絡会議が、社会が抱えるその時々
の課題のうち特に重要な課題については③を含めて以下を審議するための課題別委員会が、
それぞれ設けられています。

ア) 防災減災

イ) 人口縮小社会における問題解決

ウ) フューチャーアースの推進と連携

エ) オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用

オ) 自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン

カ) 学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学情情報の基盤形成

キ) 大学教育の分野別質保証

ク) 我が国の学術の発展・研究力強化

ケ) ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用

上記「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の趣旨に沿って選考の際に考慮・留意す
べき課題等を選考方針においていかに反映させるか、方針に示すこととする場合、●●●等
の部分に何を掲げることが適当か（12月の総会で取り上げた①～④や課題別委員会で審議さ
れているア）～ケ）の中で何を掲げるか、それら以外に掲げるべき課題等として適当なものは
あるか）等について、~~会員の皆様のご意見をお聞かせください。~~寄せられたご意見を踏まえ、
幹事会及び選考委員会においていかに方針に反映させるかを検討した上で 4月の総会に諮る
選考方針の案を作成します ~~2月下旬以降あらためて（連携会員、外部の有識者等からの意見~~
~~聴取と並行して）会員の先生方からご意見を求めることとします。~~

~~なお、それらの課題等はあくまで次期の会員候補者選考の際の観点の一つとして選考方針~~
~~に掲げられるものであり、次期のその他の活動を制約するものではなく、また、幹事会、部~~
~~会、分野別委員会等が次期に引き継ぐ課題等を第25期の期末にそれぞれ決定することを妨げ~~
~~るものでもありません。~~

* 見え消しは会員1次照会版における注記からの変更部分。

【案3：「選考方針」では具体的な事項・課題等を提示せず、会員・連携会員に対して推薦依頼を行う
までに、幹事会において別途それらを決定することとし、その旨を選考方針に記述】

その際、次期における重点事項、中長期的・分野横断的課題等に適切に取り組むことができ
るように非改選の会員及び新たに任命される連携会員との組み合わせに配慮する。次期にお
ける具体的な重点事項等については、カーボンニュートラル（ネットゼロ）、パンデミックと
社会、研究力強化等を含めてどのようなテーマとすることが適当か、各部、分野別委員会等で
の今後の議論も踏まえ、会員・連携会員に対する推薦依頼を行うまでに（令和4年10月日
途）幹事会において決定する。

将来的に目指すこととする会員の男女の比率について

選考方針（原案（案）・会員 1 次照会版）

3. 会員候補者の選考

（2）選考に当たって考慮すべき観点

① ジェンダーバランス

将来的には会員における男女の比率をいずれも●%以上にするを
目指すこととしつつ（以下略）

○ 会員からのご意見

- ・ 「50%」（越智光夫会員（第 2 部））
 - ・ 「同程度」に修正（和田肇会員（第 1 部）、遠藤玉夫会員（第 2 部））
 - ・ 「男女の比率を均等にすることを理想としつつ」（宇山智彦会員（第 1 部））
 - ・ 数値目標を掲げない定性的な目標を提示しつつ、会期ごとに数値目標を定める（今のよ
うな書き方）がよいのではないかと（筑本知子会員（第 3 部））
- ※ 具体的な数値目標の提案なし
- ・ 「いずれの分野においても同程度（40～60%の範囲）」（材料工学委員会幹事団）
- ※ 健康保険科学系では逆転しており（女性比率が 80%？）、これをほぼ同等とすることには強い判
定意見（ママ）もある、とのコメントあり

* 将来的に目指すべき水準を示すことに対する反対・消極意見はなし

○ 論点

- ア) 性別による偏りが無い状態について、具体的な数値を示すか、定性的な表現とするか。
具体的な数値を示す場合には、どのような数値とするか。そのような姿を「目指す」か
「理想とする」か。
- イ) 会員全体に対する考え方を越えて、分野別まで視野に入れるか。（材料工学委員会幹
事団からの修文意見）

○ ご意見を踏まえた修正例（案）

【案 1】

将来的には会員における男女の比率をいずれも 40%以上（50%/均等）にすること
を目指すこと（理想*）としつつ * 「均等」とセット

【案 2】

将来的には性別に偏りのない会員構成を目指すこととしつつ

- ※ 論点イ) にも対応する場合には、まず会員の全体構成についての考え方を示した上
で、さらに分野別の会員構成における男女の割合について言及することとするか。